

より便利で明るく快適な空間に

J R東北本線・水郡線「安積永盛駅」

《駅名由来》

「永盛」という地名は、明治9年(1876)、小原田、笹川、笹原、日出山の四ヶ村が合併した時に名付けられた新しい村の名前です。末永く栄える(盛える)ようにとの願いが込められ村名でした。3年後に各村は再分離し、明治22年(1889)の市町村制施行で再び永盛村が生まれ、昭和29年(1954)には永盛町と豊田村が合併して安積町となり、さらに昭和40年(1965)に郡山市と合併しました。



安積永盛駅前の表示板

現在、「永盛」という行政区名は残っていませんが、当駅名をはじめ小学校などに残されています。

この地名の由来を受けて、明治42年(1909)、東北本線が永盛村笹川を通過していたことから「笹川駅」として開業、昭和6年(1931)、水郡線が川東まで開通した時「安積永盛駅」と改称しました。

※表示板全文



安積永盛駅上空から西側を望む



安積永盛駅西口広場



郡山市 建設交通部 総合交通政策課 TEL024-924-3721
 道路建設課 TEL024-924-2291



郡山市



～安積永盛駅西口広場改良事業～

安積永盛駅西口広場周辺では、これまで朝夕の通勤通学や病院等への送迎車両による混雑が見受けられ、市道の通行に支障をきたしている状況にありました。このため、広場内に乗降場（一般車、大型車）及び待合場を整備し、交通結節点の機能強化・駅利用者の利便性向上を図るとともに、周辺市道における安全性向上を目的に整備しました。

また、駐輪場不足を解消するため永盛歩道橋下空間を有効活用し、駐輪場を増設しました。



通勤通学時間帯の様子（整備前）

＜JR安積永盛駅西口広場の利用状況＞ ※安積永盛駅西口広場等改良基本計画調査より

- ① 自由通路通行者：**合計1,361人**（西口広場⇒駅東口709人、駅東口⇒西口広場652人）
- ② 西口広場駐輪場の自転車数：**最多（13時）260台** ※既存駐輪可能台数200台
- ③ 西口広場への自家用車の送迎台数：**計92台 最多（7時台）：46台**
- ④ 西口広場への送迎バス台数：**延べ14台**
（日本調理専門学校7台、尚志高校3台、あぶくま支援学校2台、あさかホスピタル2台）
- ⑤ 安積永盛駅の1日の平均乗車人員：**2019年度2,461人**

事業概要

＜都市計画決定＞

駅名：安積永盛駅

広場種別：駅前広場 計画面積：3,000㎡

昭和42年10月9日（当初）建告3424号

昭和49年4月12日（最終変更）県告354号

＞整備経過

昭和46年度 当初広場整備（安積第一土地区画整理事業）

昭和55年度 東西通路（歩道橋）整備（笹川二安積二歩道線）

平成12年度 駐輪場整備（200台、照明）

平成15年度 トイレ整備（男・女・多目的）

安積永盛駅西口広場改修工事

施工面積 650㎡

工事内容 舗装工、排水工、照明工、駐輪施設工、待合場、案内板 等

全体事業費 34,930,500円

工事期間 R2.8.24～R3.1.8

施工者 聖光建設株式会社

整備内容



施工前



完成

＜案内板＞
利用者に分かりやすく



＜自発光縁石＞
夜間時でも出入口を分かりやすく



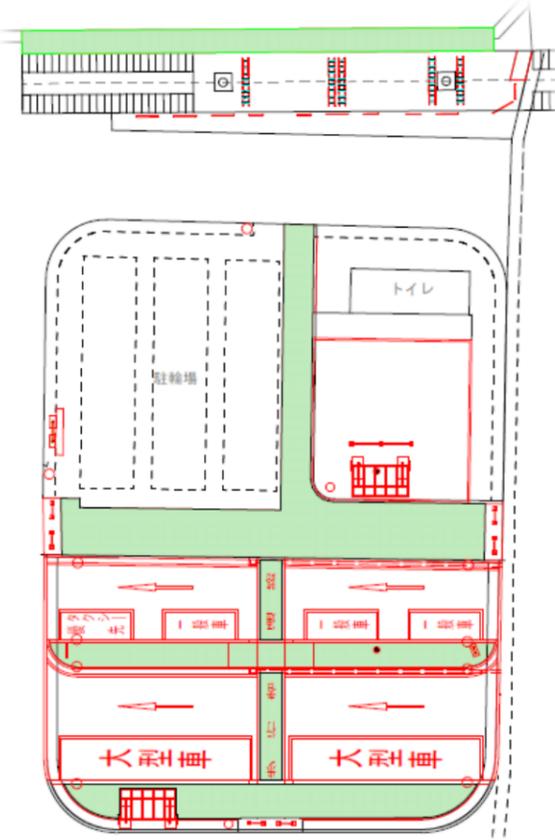
＜透水性平板ブロック＞
音楽都市をイメージしたデザイン



＜補助駐輪スペース＞
広場を利用した駐輪スペース
ツーロックも可能



＜駐輪場＞
歩道橋の階段下を有効活用して新たに40台増設
＜通路＞
階段脇に新たに通路を整備



＜待合場＞
乗降場利用をより快適に



＜ソーラー照明＞
自然エネルギーの活用により地球環境にもやさしく



＜乗降場＞ 一般車と大型車を区分し、より安全に

